



各位

2026年4月21日

会社名 株式会社トリプルアイズ
代表者名 代表取締役CEO 片渕 博哉
(コード番号：5026 東証グロース)
問い合わせ先 TEL. 03-3526-2201

トリプルアイズ 2026年8月期第2四半期決算 Q&A に関するお知らせ

この質疑応答集は、2026年4月14日(火)に行われた 2026年8月期第2四半期決算発表に関して、投資家の皆様よりいただいた主なご質問と回答をまとめたものです。ご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

なお、回答内容については現時点で当社が把握しうる限りの情報をもとにしております。

詳細につきましては、別紙をご参照ください。

本リリースに関するお問い合わせ先
株式会社トリプルアイズ
東京都港区芝浦3-4-1 グランパークタワー32F
電話：03-3526-2201
MAIL：info@3-ize.jp

各位

2026年4月21日



会社名 株式会社トリプルアイズ
代表者名 代表取締役CEO 片渕 博哉
(コード番号：5026 東証グロース)
問い合わせ先 TEL. 03-3526-2201

2026年8月期第2四半期 補足資料（質疑応答集）

この質疑応答集は、2026年4月14日(火)に行われた2026年8月期第2四半期決算発表
に関して、投資家の皆様よりいただいた主なご質問と回答をまとめたものです。
ご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q1

現在の開示では、堅調なエンジニアリング事業と自社プロダクト事業の収益が一体となっています。投資家として、利益率の高い自社プロダクトがどの程度成長しているかに注目しております。今期の全社的な粗利率の推移または改善に対して、自社プロダクトの成長はどの程度ポジティブに寄与しておりますでしょうか。定性的なニュアンスだけでもお聞かせください。

A1

AI プロダクトに関しては、上半期の利益改善において今後の収益を支える大きな柱としてポジティブに寄与しています。定性的な側面では、以下の3点が主な要因です。

- ・ **勤怠管理需要の増加**：労働基準法の改正に伴い需要が高まっており、大手勤怠基盤サービスとの連携が進んだことで、顧客導入数およびID数の増加に寄与しています。
- ・ **再生可能エネルギー関連の需要**：太陽光発電施設などの重要拠点において、侵入検知や獣害対策（クマ等の検知）といったセキュリティソリューションの需要が確実に高まっています。
- ・ **カスタマイズ開発の拡大**：自社の顔認証APIやSDKを活用したカスタマイズ開発の需要も堅調に推移しています。

Q2

自社プロダクトの成長推移を図る指標として、例えば導入企業数の伸び率やストック収益、ARR、MRRの成長率など、差し支えない範囲で共有いただける事業KPIはございますでしょうか。

A2

上半期の主要なKPIとして、ID数に基づく課金モデルの進捗状況をご説明します。「アルコール検知×顔認証」を組み合わせたサービスについては、この6カ月間で導入数が期初時点比で約157%、MRRは約112%の成長率を記録しました。

ただし、一般的なSaaSやAIサービスと比較すると、現状のMRR成長率はまだ不十分であると認識しています。下半期に向けては、継続的な大手顧客基盤の開拓や外部サービスとの連携強化、およびメインプロダクトの改良を推進し、上半期を上回る成長水準を目指してまいります。

Q3

第2四半期は通期計画に対して高い進捗となっているが、売上粗利が計画通りであるという表現から考えると、販管費の減少が要因という理解で良いのか。その場合、第3四半期以降はどのように考えているのか。

A3

第2四半期の高い利益水準については、AIソリューション事業の売上および営業利益がともに想定以上に好調に推移したことが主因です。単なる販管費の未達によって利益が改善したわけではない、という点をご認識いただければ幸いです。

第3四半期以降については、4月にグループ全体で39名の新卒社員が入社するため、販管費の増加を予定しています。そのため、予算上は下半期の利益が上半期を下回る見込みですが、好調なメイン事業をさらに伸ばすことで、業績のさらなる好転を図ってまいります。

Q4

GPUサーバー事業が営業損失52百万円となっていますが、今後の建て直し策を教えてください。

A4

現在、同事業はビジネスモデルの転換期にあります。具体的には、従来のマイニングマシン販売から、AI開発用途向けのGPUサーバー販売へのシフトを加速させています。

上半期は暗号資産市場の低迷が強く影響し、数値上の改善が見えにくい状況でしたが、3月の決算期に向けた販売は着実に進捗しています。その結果、売上総利益率は前年比で約10%改善しており、収益体質は強化されています。また、第2四半期に暗号資産の評価損約23百万円を計上し、過去の懸念要因を適切に整理いたしました。今後は市場相場に左右されない、安定した収益構造の確立を目指してまいります。

Q5

画像認識プラットフォーム事業の今後の課題と成長戦略についてお聞きしたいです。

A5

今後の課題と戦略については、以下の2軸を明確に定めています。

「厳格な本人認証」領域への特化：決済やビル入館において国内で普及しているスマートフォンやカード（所有認証）に対し、エンタメ分野の不正転売防止やWeb試験での本人確認など、より厳格な本人性が求められる領域へ注力し、差別化を図ります。

API/SDKの拡充とシステム連携：多様なハードウェアやOS、外部システムと柔軟に連携できるようにプロダクトを磨き上げます。

これらの戦略的な取り組みについては、今後も積極的にIR情報を発信していく予定です。

Q6

株価の低下が続いておりますが、原因についてどのように分析されていますでしょうか。

A6

投資家の皆様の懸念を真摯に受け止めております。分析している主な要因は以下の通りです。

内的要因としては、過去の経営への不安や暗号資産相場による業績不透明感、GPUサーバー事業のボラティリティの高さが挙げられます。また、売上拡大フェーズから利益創出フェーズへの移行スピードが、市場の期待と乖離している点も認識しています。

外的要因としては、グロース市場全体の低迷や、AI関連の大型株への資金集中による需給の悪化が影響していると考えています。

今後の対策として4つの柱を軸に考えています。

収益性の早期向上：いち早く利益水準を引き上げ、投資家の皆様への還元を重視した経営を行います。

新ドメインへの進出：製造業など、成長が期待できるドメインに向けた新プロダクトを投入します。

戦略的M&A：時価総額や事業シナジーの創出を意識した積極的なM&Aを検討します。

IR発信の強化：業績アップに繋がるリリースなど価値ある情報を積極的に発信します。

新代表の体制のもと、グループ全体のシナジーを高める取り組みを加速させ、透明性の高

い迅速な意思決定によって時価総額の向上を実現してまいります。

【参考資料】

・ [2026年8月期第2四半期決算説明資料](#)